

努力事項解説 その2 (小学校音楽)

「児童が、音楽を形づくっている要素を聴き取り、
音楽のよさや美しさと結び付けて感じ取ることができるような
授業の展開を構想する。」の実践のポイントを考えていきます。

○ 第1学年 題材「わくわくりズム」の場合

この題材では、題材名のとおり、「リズム」という要素を聴き取り、よさや面白さ、美しさと結び付けて感じ取ることができるような授業を展開していきましょう。ただ、第1学年及び第2学年の児童は、活動そのものを楽しむ傾向がありますから、理論を説明したりせず、児童がリズムを聴き取り、それに合わせて体全体でリズムを表現しているか、教師がしっかり見取ることが大切です。そして、リズムに乗れない、リズムを感じ取ることができていない児童がいると判断したら、授業の中で個別に指導していくようにしましょう。



(1) 「たんと うんで あそぼう」の実践のポイント

ねらいは、「楽しみながら、四分音符と四分休符を組み合わせて創ったリズムを感じながら、正しく打っている。」です。

教科書の表に、○や◇を書き入れ、○を「タン」で手拍子をする、◇を「ウン」で手拍子をせず休み。という流れを、拍の流れに乗ってスムーズに行うことができればねらいを達成したと判断できます。児童は手拍子するだけでなく、体を揺らして体全体でリズムを表現することが多いので、それをよく見取り、うまく拍の流れに乗れない児童には、教師と一緒に手拍子をするなどして支援し、授業の最後にはできるようにしたいものです。



(2) 「ぶん ぶん ぶん」の実践のポイント

ねらいは、「楽しみながら、四分音符を3つと四分休符を1つを組み合わせた「タン、タン、タン、ウン」のリズムを感じ取り、ぶんぶんぶんの歌に合わせて正しく打っている。」です。

この曲の場合、ぶんぶんぶんの次の「はちがとぶ」のところで、手拍子が「八分音符を5回たたく」、つまり、歌と同じリズムになりがちです。その場合は、「あれー、なんかおかしくない？。誰々さんのを聴いてみてね。」または、「先生が、ふたとおりの手拍子やってみるから、どっちが「タン、タン、タン、ウン」のリズムか聴いてみてね。」など、間違いをただ指摘するのではなく、児童が間違いに気付くようにしていきましょう。

(3) 「しろくまのジェンカ」の実践のポイント

ねらいは、「楽しみながら、(タン、ウン、タン、ウン、タン、タン、タン、ウン)というジェンカのステップの軽快さを感じ取り、それに合わせて、しろくまのジェンカを歌っている。」です。

歌とジェンカのステップの両方を同時に行うのは1年生には難しいので、実態に応じて、ステップを楽しむことを中心に授業を組み立てていきましょう。「しろくまのジェンカ」を正しく歌えることも大切ですが、この題材のねらいは「リズム」です。全員が「しろくまのジェンカ」を正しく歌えることではなく、全員が「シロクマのジェンカ」の歌に合わせて、楽しく、ジェンカのリズムに乗ってステップを踏んでいるかどうか、しっかり評価し、できていない児童には、教師と一緒にやってみるなどして、援助していきましょう。

(4)「ポンポンポップコーン」の実践のポイント

ねらいは、「楽しみながら、ポンポンポップコーンに合わせて、(タン、タン、タン、ウン)
(タン、タタタン、ウン)(タン、タン、タタタン)の、四分音符に八分音符を加えたリズムを感じ取り、正しく打っている。」です。

初めて八分音符の手拍子を経験しますが、(ポン、ポポポン)という歌詞と一緒に手拍子することで楽しみながら正しく打つことができると思われます。

教科書に、「速くしてもおもしろいよ。」と、速度の変化の効果を感じ取る学習をすることも考慮された記載があります。これについては、児童の実態に応じて挑戦してみましょう。ただ、全員が達成するねらいとしては、あくまでも「リズム」と考えていくことが大切です。

(5)「うみ」の実践のポイント

ねらいは、「楽しみながら、3拍子のリズムを感じ取り、海の情景を想像しながら、歌っている。」です。

この曲がこの題材に含まれているのは、この曲のよさをつくりだしている様々な音楽の要素の中の、「リズム」に焦点を当てて指導することが意図されているからだと思います。

教科書にあるように、3拍子のリズムに合わせてゆったりと体を揺らしながら、大海原を想像させながら、元気よく歌わせるようにしていきます。



今回は、2年生の実践のポイントを考えていきます。7月26日(金)頃アップする予定です。